

学校教育活動の活性化や充実に向けて西部教育事務所も力になります

今年度8月末までの5カ月間で、延べ289校からの申請を受け、学校支援に伺いました。校内研修での助言等、多くの先生方を対象とした研修だけでなく、個人や部会等の少人数の先生方を対象としたサポートも行っています。先生方と一緒に、課題解決に向けて取り組んでいきます。気軽に相談してください。

学力向上	生徒指導	サービス
132校	104校	53校

【令和4年度(8月末まで)の学校支援】



Q-Uの結果を学級経営にどのように結び付けたいのか知りたい

子供たちが主体的に学ぶ授業づくりについて具体的に知りたい

欠席が増えてきたAさんへのアプローチ方法を相談したい

バックアップ申請の方法、バックアップメニューを西部教育事務所ホームページに掲載しています。こちらのQRコードからも御覧いただけます。




「いのちを守るのは事前の準備が9割である。」【災害安全】塩田中学校の取組

9月8日(木)に嬉野市立塩田中学校の1年生を対象として、「【自分のいのちは自分で守る】～避難所生活を考える～」をテーマに、赤十字防災センターから講師の先生がお見えになり、講話や段ボールベッドづくり体験等が行われました。講話の中で、「備える」ことの重要性を伝えられました。「災害が大規模になるほど、外部からの支援で救える命は少なくなる」という内容から、「自助」と「共助」の必要性や、「いのちを守るのは事前の準備が9割である。」と教えていただきました。



これを機会に、ハザードマップの見直しや災害時の避難場所の確認、防災リュックの購入や中身の確認など、「事前の準備」に取り組んでみてはいかがでしょうか。



さらに、避難所で活用されている段ボールベッドのメリットについて話があり、①床から距離がとれる(特に冬場の寒さ対策には重要)、②座ることができる(立ったり座ったりが容易)、③備蓄と保管が容易、など紹介されました。組立て前の段ボールベッド1台は、生徒1人でも持ち運び可能で、製作も説明書を見ながら数名で容易に完成させることができました。また出来上がったベッドには4~5名座っても問題ありませんでした。

災害は「いつ」「どこで」起こるか分かりません。生徒たちは、将来今住んでいる地域を離れても、災害時にどのような考え方で、どのように動くかが、この取組を通して身に付いたことでしょう。体験することは、知ることであり、それが「備える」ことにつながります。このような機会が増えれば、避難所での生活もより豊かになると感じました。

初任者研修 若手教員による公開授業参観及び授業研究会 ～「自ら学び続け 学び合う子供」を育む授業～

6月7月にかけて、西部教育事務所による初任者研修 若手教員による公開授業参観及び授業研究会を開催しました。今年度は感染対策を行いながら、初任者が集合し、公開授業を参観しました。授業をされた先生に質問したり、グループで熱心に話し合ったりと積極的に研修を受けられていました。授業では、「自ら学び続け 学び合う子供」を育むための、様々な手立てが見られました。



6月13日(月) 白石町立白石小学校 平井 貴大 教諭	7月4日(月) 嬉野市立塩田小学校 田代 梓 教諭	6月20日(月) 伊万里市立青嶺中学校 中村 成美 教諭
算数科「時こくと時間」	算数科「ひきざん(1)」	外国語科「相手のことをさらに知るために情報収集スキルを身に付けよう」
		
具体的な手立て		
☆「全校のみんなのために時間割表を作ろう」という単元のゴールを設定する。 ☆ICT (Jamboard) を利活用する。 ☆全時間の振り返りを1シートにまとめ、自分の伸びを実感できるワークシートを作成する。	☆児童の日常に関する話題で導入を行い、学習内容の意識づけをする。 ☆問題場面を理解しやすくするために動作化を行う。 ☆表情絵を使った振り返りシートで低学年でも振り返りやすくする。	☆導入でルーブリックを使って、身に付けるべき力を確認し、終末ではルーブリックを使って、自己評価を行う。 ☆身に付けるべき力を更に伸ばすために中間評価を行う。(生徒のつまずきやよかった所の共有)
～振り返りアンケートより		
・このように授業をすると、 <u>子どもの興味を引き出せるのだ</u> 、自分もやってみたい、と思う技がたくさんありました。 ・ <u>はてなボックス、ICT の活用方法、発問の仕方</u> など学ぶところがたくさんありました。明日出来ることから真似して取り入れていきたいと思えます。	・ <u>動作化や具体物をうまく使うこと</u> で、子どもたちの学びが深まることが分かりました。 ・ <u>明確な指示や発問がどのようなものか、他の授業で生かせる指導</u> は何かという事を学びました。子ども達が「楽しい」と思える授業づくりを私もできるように頑張ります。	・子どもたちと楽しく授業されている姿を見て、自分自身のモチベーションにつながりました。 <u>視覚的な支援をもっと取り入れていきたい</u> と思いました。 ・生徒の <u>学び合いの活動</u> が多く、 <u>目標や流れ、評価が明確に示</u> されており、参考になりたいと思うことばかりでした。

最後に、今回、素晴らしい公開授業を提供していただいた3名の先生方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

「自ら学び続け学び合う子供」を育むために、日々の教育活動の中で意識し、取り組んでもらいたいことをガイドブックとしてまとめています。「別冊資料」では、【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】【指導案作成】について掲載しています。ガイドブックは、西部教育事務所 HP に掲載しております。日々の教育活動に御活用ください。